

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年1月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1171000282
法人名	株式会社 寿エンタープライズ
事業所名	グループホーム八潮
所在地	〒340-0808 埼玉県八潮市緑町1-23-8 (電話) 048-999-4100

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年1月14日

【情報提供票より】(平成20年12月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 11人, 非常勤 9人, 常勤換算 16.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	25,000円+実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日あたり 1,200円			

(4) 利用者の概要(12月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	広瀬病院、八潮中央総合病院、康寧会
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、バス停から徒歩1分の通りに面した住宅地に建っている。周りには地域包括支援センターや総合病院があり、施設にとっては加齢の方々が安心して暮らせる恵まれた環境にある。また、災害時のことを十分考慮に入れており、1階の9室には車椅子を使用している方や高齢の方が生活している。玄関を入ると目の前にエレベーターがあり、2階へ昇れるようになっている。殆どの利用者は共用の部屋で過ごしており、キッチンも対面式で職員の目が届き、畳の部屋も用意され家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活している。地域の中に溶け込み孤立することなく暮らすことを理念とし、地域での買い物や散歩では気持ちよく挨拶を交わし、地域の行事や奉仕活動に参加するなど交流の場を多く持っているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で挙げられた課題については、意識付けの強化を図り、職員全員で話し合って改善に向け取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが自己評価の意義を理解し、それを踏まえて話し合いを持ち、細かい発見につなげる努力をしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>3か月に1回、運営推進会議を開催している。話し合いの繰り返しでマンネリ化しないよう、会議を実施する前にイベントを取り入れて利用者の様子を把握してもらうなど、アイデアに富んだ取り組みに努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会があるほか、ホーム便りを配布して家族に様子を知らせたり、面会時などに苦情や不安などを話してもらうようにしている。今までに苦情は受けていないが、今後も家族の声に耳を傾け、意見があれば改善やサービス向上につなげていくこととしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>1軒の家として自治会の仲間入りを目指し、現在は賛助会員として自治会に入会している。地域の行事である盆踊りや市民祭りに参加したり、幼稚園のお遊戯会や小学校の運動会にも見学に行くなどして交流を深め、地域へ溶け込むよう努力している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域で役立つホームでありたいという考えを軸にして「喜びや楽しみを支援して一緒に共感できるケア」「安心できる関係づくりと心地の良い環境づくり」を理念として、利用者が和やかに明るく快適に暮らせるよう支援している。		地域につながるホームであることを理念の中に表現することで、すで実践している取り組みが活かされる。地域密着型サービスの役割を理念の中に盛り込むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員と共に理念の実践と方法について話し合い、具体的に理念につながるように共通理解をして、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に賛助会員として入会し、地域の行事や活動予定の情報を得ている。地域で行われる盆踊りや市民祭りに参加したり、幼稚園のお遊戯会や小学校の運動会を見学するなどして交流を深め、地域に根ざしたホームづくりに向けて努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で改善課題として挙げられた項目については、各ユニットの職員が集まって意識付けの強化を図り、全職員で改善に向けた取り組みについて話し合っている。また、職員一人ひとりが自己評価の意義を理解し、それを踏まえて話し合いを持ち、細かい発見につながる努力をしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3か月に1回開催されている。会議では、ホームの行事運営などについて報告を行うとともに、意見を出し合っている。また、話し合いを繰り返すことでマンネリ化を引き起こさないよう、会議を行う前にイベントを取り入れて利用者の様子を把握してもらうなど工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ふれあい福祉部高齢いきがい課への月例報告や諸手続きを通してお互いに情報交換をしたり、月1回の介護相談員による訪問の際に意見をもらうなど連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が多く、玄関には利用者一人ひとりのアルバムを常備している。また、ホーム便り「ふれあい」を3か月ごとに発行して家族に状況等を知らせているほか、金銭管理報告については、毎月来所の際に写しを提示している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設置し、意見や苦情などを聞く機会としている。また、面会時にも不安などを話してもらうようにしているが、家族からの苦情については受けたことがない。意見や要望があれば会議で取り上げ、運営に反映していくこととしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、管理者や職員の異動はない。やむを得ず離職が生じた場合は、利用者のダメージを防ぐことに配慮し、新たに入職した職員と利用者が少しでも早く馴染めるよう雰囲気づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で基本的な研修を行い、救命講習や応急処置の人命に関する研修などを履修している。外部研修については、職員の段階に応じた研修の機会があり、勤務に支障のないようにして自主的に研修を受けている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月行われる事業者連絡会や各市町村が主催しているケアマネージャー協議会に出席して情報交換や交流を図っている。また、同一法人内で交流する機会があるほか、他法人との交流でも様々なことを学び、サービス向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が納得して入居してもらうために、入居前のアセスメントをとっている。時には、日中の時間帯で数日間利用してもらい、他の利用者や職員と馴染みの関係を作って入居に至ることもある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と一緒に過ごす中で、教えたり、教えてもらったりの関係づくりを大切にしている。また、利用者の得意とする分野で力を発揮してもらい、職員は感謝の言葉を伝え、共に支えながら楽しい暮らしにつなげていくようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの思いや意向を尊重して、できるだけ本人の気持ちに添うことを大切にしている。また、家族の意向についても来所の折に把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の生活の様子を家族に伝え、本人、家族、職員で話し合っ、より良い支援となることを目指し介護計画を作成している。作成後の全職員による共有には至っていない。</p>		<p>介護計画作成後は全職員へ周知し共有していくことを期待したい。回覧等を活用して確認の印やサインをすることも一つの共有方法である。介護計画の内容を意識付けして、目標にそった実践に活かしていくことが期待される。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しと、変化の著しい場合に見直しを行っているが、介護計画の目標に関する内容について十分な理解がされておらず、見直しに活かされていない。</p>		<p>介護計画の目標に対する評価(モニタリング)達成度や満足度などについて話し合い、記録を基に新たな課題への見直しがされることを期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊などの移送サービスを家族や利用者の要望に応じて、できる限り支援をしている。また、外泊先で落ち着かなくなった時は、ホームへ戻る支援にも応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人が今までのかかりつけ医を希望すれば継続することが可能である。現在は全利用者が協力病院の医師をかかりつけ医としており、2週間に1回の往診がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に近い利用者がある場合は、医師、ホーム、家族の三者で話し合い、方針を共有するとともに、家族の意向を大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規定に掲げられていることを、職員に周知徹底しており、自然体で落ち着きのある雰囲気でも過ごしている。個人情報の取り扱いにも十分注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思を尊重して、その人らしい心の動きに合わせてケアすることを大切にしており、無理強いすることなく希望にそった生活を過ごせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど一連の作業では、利用者も職員の見守りにより出来る範囲で行っている。また、職員は介助する一方になることなく、和やかな雰囲気の中で利用者と一緒に食事をとっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日もしくは2日おきに入浴できるよう支援しており、午前中から入浴を受け入れることができる体制をとっている。また、入浴を好まない利用者への声かけを工夫し、入浴を楽しめるような支援を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	様々な視点から利用者のことを考え、身体的状態や気持ちに配慮しながら、地域行事に参加したり、買い物や外食など楽しく気晴らしのできる支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの気分に応じ、天気の良い日は散歩に出かけたり、希望を取り入れた外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけず自由に出入りできる。各ユニットごとに職員は目配り、気配りをして利用者の様子に注意を払い、外出の際は付き添うようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については、運営推進会議でも議題として取り上げ話し合い、年2回訓練を実施している。車椅子の利用者、高齢の方、介護度の高い方への救出について、特に夜間の災害には地域の協力が必要なことから、隣組の協力体制をお願いしたい意向である。		人命救助については、さらに細かい立案が必要である。マニュアルに緊急連絡網を作り、地域の人々の協力を得ることを積極的に進めることが期待される。また、備蓄についても目を向け、地震対策の検討も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分摂取量を毎食後記録し、量に低下がみられた時は、好みのものを提供したり、利用者の状態に合わせてミキサー食や刻み食にすることで必要量確保に努めている。材料は、食品会社からの取り寄せられたものなので、バランスのとれた食事が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の部屋には窓から明るい陽が入り、畳の部屋も用意されている。また、玄関や廊下の壁には手作りの飾り物や絵が飾られ、キッチンも対面式になっており、家庭的にゆったりと過ごせる配慮がされている。トイレの数も多く、居心地のよい生活空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、大きなロッカーと洗面台が備え付けであり、家からの持ち込みの家具は少なくシンプルであるが、家族の気遣いで個性のある居室となっている。仏壇を供えている方もおり、入り口には統一された手作りの表札と写真が貼られている。		